

## 絵本紹介



り出したりなど、ままだとコーナーやら砂場やら、いたるところで、興味をもって水あそびをします。

このようなあそびも、自然の領域からみてみると、小さな実験の連続といえます。しかし理論づけができないまま、貴重な経験も単なるあそびとして通過してしまつていいことが多いではないでしょうか。

これはみんなほんとうのことです。  
ほんとうかどうかたしかめてみましょう。

このほんをよむと、やりかたが、わかります。

さあ、じっけんをはじめましょう。  
このほんをよむと、やりかたが、わかります。

### 菊池百合

たしかめてみよう

がこの本です。

実験」というと、準備する物が多く、

とかく面倒なことと敬遠しがちななもの

あなたはこんなことをしつて  
いますか？

みずはかわいていることもあ  
る。

ですが、この本を読んでみると、實際に“たしかめてみよう”という気にな

くうきはふくらむ。  
はでおとがきける。

せられます。ごく身近な物を使い、あ

そびながらたしかめられるのです。  
とりあげてみましょう。

みずのじっけんから二、三の実験を

子どもたちは水あそびが大好きです。  
水道の栓をひねったりとじたり、ハン  
カチをぬらしてあちこちにペタペタつ  
けてみたり、小さい容器に水を入れた

ローズ・ワイラーネ・シェラル  
ド・エイムズぶん

タリバルジス・スチュービスえ  
吉村証子やく 福音館書店

くうきはふくらむ。  
はでおとがきける。  
じしゃくはゆびをあいだに  
おいててもてつをひきつける。

◇ ◇ ◇  
(すいてきはまるい)

つかうもの　かみ　ろうそく　せ  
つけん　スピード　みず  
かみに　ろうそくを　こすつて  
ろうをぬりましよう。

ろうそくの　かわりに　クレヨン  
を　つかっても　かまいません。  
スピードで　みずを　いっぱい  
すいあげ　ろうを　ぬつた　か  
みに、二、三でき　おとしてみま  
しょう。

ほら！　まるいでしよう。

すいてきの　ひょうめんが　まく  
のようになっていて、みずを　ま  
るいかたちに　つつんでいます。  
このために、すいてきは　こわれ  
ません。

さあ、こんどは　ちいさくなつた  
せつけんの　はしを　ぬらして、  
すいてきにつけてみましよう。  
まくは　やぶれます。

だから、すいてきは　ひろがつて  
しまいます。

これが、さし絵入りで、わかりやす  
く示されています。ただなにげなくあ  
そでいることも、実験としてあらた  
めにしてみると、子どもたちは水滴が

まるくなつたことさえ、驚いたり、大  
成功を喜んだりします。そしてていね  
いに水滴の膜を破ろうとします。

◇ ◇ ◇

おや！　こしうが　もどつてく  
る！

おさとうは、まくの　ちぢむ  
からをつよくするからです。

おさらには　みずを　いれて  
こしようを　ふりかけてみましょ  
う。

それから、せつけんの　はしを  
ぬらして、おさらのみずにつけ  
てごらんなさい。

ほら！　こしうが　にげる！

水面の膜のちぢむ力の強弱は見えな  
いものであるが、このようにして見え  
るものとして示されると、理解できる  
かどうかは疑問であるが、子どもたち  
はこしうの動きを見て、感激する。

保育科の学生とこの実験をした。は  
じめは本に示された通りにしたが、次  
にこしうのどんな要素を用いている

すいめんの　まくは　ちぢもうと  
します。そのちからは、きれい  
な　みずでは　つよいのですが、  
せつけんすいでは　よわいのです。  
だから、きれいな　みずは、こし  
ょうをひきよせます。

こんどは、おさとうを　もつてき  
て、せつけんすいのところにふ  
りかけてごらんなさい。

おや！　こしうが　もどつてく  
る！

おさとうは、まくの　ちぢむ  
からをつよくするからです。

のかを考えた。水に浮くから、すぐに  
は水にとけないから、色がついていて  
はつきり見えるから等の推測が出た。

そこで、こしょうの代りにどんなもの  
が使えるかいろいろの物でためして  
みた。枯葉、枯葉を小さくぎんまだも  
の、大小の種子、紙切れ種々。こしょ  
うの代用品を考えながらこの実験の意  
味をよく理解しようとした。保育者が、  
あらかじめこのような試みをしておく  
と、子どもの遊びの中に、これらの  
実験に類似したことが多いのに気づく。  
子どもの遊びに変化をつける助言の  
ヒントになる。

◇ ◇

「かわいたみず」 「めにみえないみ  
ず」 「くうきからみずがとれる」など  
は、水の姿の変化として、保育者は知  
つてはいても、子どもたちに体験させ  
る方法はむずかしいと思いがちである。  
ここでは日常生活で経験していること

を例に実験していく、とてもわかりや  
すい。

この本は、読んでいるだけでは意味  
がない。紙、石けん、水、ストロー、  
コップ、磁石などを準備して、自分で  
たしかめてみることが大切です。実験  
をすすめていくと、本に書かれている  
ようにはうまくいかないことがありま  
す。巻末にも、子どもたちと実験をや  
つてみた記録がついています。

水の上に針を浮べる実験で、いくら  
静かに針を入れても針は沈んでしまっ  
た。これは一回目に使った針をふかな  
いでそのまま使ったため。つまり針が  
ぬれていたためで、針にろうをぬつて  
おくとなおよいとか、自分でしてみて  
の失敗、よりよい方法が記されていま  
す。

子どもたちは、実験というあらたま  
った形でなくとも、日常の遊びの中  
で、このようなことをくり返し、つみ  
重ねています。保育者も子どもによ  
く試行錯誤をたのしみ、それをもとに  
して考えることに慣れたいものです。  
こんな実験を子どもたちと一緒にし  
ながら、「なぜだろう」「こうしたら  
どうだろう」「ああそうか」「すごい  
なあ」と、考えたり、驚いたり、感じ  
たりすることはたのしいことです。

自然というと、とかく動植物の他は  
とてもむずかしいものと思いがちです  
が、この実験をしてみて、遊びを通  
じての自然科学のたのしさをあらため  
て考えさせられています。

水滴はあるいのようないくつかの実  
験は、練習せずにできますが、子どもたちの前  
で実験をしてみせようと思う時には、